

# ウガンダの教育事情

14年度1次隊 理数科教師 三野 光雄

## 1. ウガンダの教育システム

### (a) 小学校・中学・高校と進路

ウガンダの教育システムは、7・4・2・3制です。6歳から小学校に7年間行きますが、小学校卒業試験（国家試験）に合格しないと卒業できません。不合格の場合は落第して勉強し直すか、ドロップアウトすることになります。中学校は4年間です。高校は2年間。それぞれ卒業時に国家試験があります。大学は2年から4年間。中学や高校でもカレッジと名乗っているので注意が必要です。

小学校前には、幼稚園があり、年齢で分かれています。幼稚園には行かない子供もいますが小学校にはほとんどの子供が通います。

小学校は政府の政策で学費がただ（無料）と言っても、制服代を学校に払えないで、教室に入れてもらえない子供もいます。小学校は学区（通学区域）の指定がないので、どの小学校にでも入れます。近くの通学制の小学校（デイ・スクール）の中から選ぶか、遠くても評判のよいボーディングスクール（寄宿舎に泊まる学

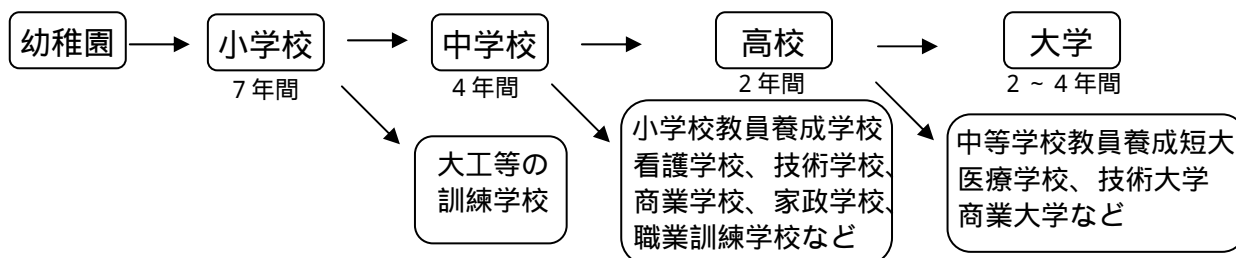
校）を選んでいるようです。ボーディングスクールは勉強するには良い環境ですが、経費が余計に必要です。

小学校卒業後は中学校に進む人が大部分ですが、小学校卒業後あるいは小学校を卒業しなくても、大工・レンガ職人・洋服仕立てなど訓練校（Practical Course）に入ることができ、それぞれの資格に対して国家試験があります。資格がなくても仕事をすることはできますが、就職するには資格があると有利です。

中学校卒業後は、高校に進む以外にも多くの進路があります。小学校教員養成学校、看護学校、技術学校、商業学校、家政学校、職業訓練学校などに進むことができます。

高校卒業後は、大学のほか、中等学校教員養成短大、技術大学、商業大学、医療学校に入ることができます。

小学校の先生になるには中学卒業後、小学校教員養成学校で2年間勉強して、教員資格の国家試験を受けます。中学・高校の先生になるには高校卒業後中等学校教員養成短大に行き、2年間勉強して国家試験を受けます。



幼稚園 Nursery School 小学校 Primary School 中学校 Secondary School Ordinary Level 高校 Secondary School Advanced Level 大学 University 小学校卒業試験 PLE = Primary Leaving Examinations 中学校卒業試験 UCE = Uganda Certificate of Education 高校卒業試験 UACE = Uganda Advanced Certificate of Education 大学卒業資格（2年コース）Diploma（3年コース）Higher Diploma（4年コース）Degree 小学校教員養成学校 PTC = Primary Teachers' College 看護学校 Nursing School 技術学校 Technical School 商業学校 Business School 家政学校 Home management School 職業訓練学校 VTI = Vocational Training Institute 中等学校教員養成短大 NTC = National Teachers' College 技術大学 UTC = Uganda Technical College 商業大学 UCC = Uganda Commercial College 医療学校 Medical School

### (b) 小学校教育の普及政策と学費

ウガンダ政府は教育に力を入れ、小学校教育の普及を推進しています。第1段階として1家族につき4人までの児童の小学校の学費が無料になりました。このため、1996年に小学校児童数は270万人でしたが、1997年には530万人に跳ね上がりました。2000年より、すべての児童の小学校の学費が無料になり児童数660万人、就学率は100%を超えています。人口統計が子供数を少なく見積っている事や落第・就学年齢以前に入学する等が原因

です。小学校数も1996年は約8500校だったのが2000年には約12500校に増えています。教員数も1996年の4万4000人から2000年の11万人に急増しています。教師1人あたりの児童数は60人（全国平均）となります。実際は、もっと大変で私の近くの小学校では1クラス80人程度です。

小学校の学費は無料ですが、制服、教科書用品にお金がかかるうえ、ボーディングスクール（全寮制学校）の場合は、それ以外に寮費食費等が必要です。また学校によって校舎建設の

ためのお金を集めたりしています。私立の小学校の場合は公立の小学校よりも多くの費用が必要です。その代わりに、公立の小学校では1クラス80人～100人程度ですが、私立の小学校では1クラス40人以下です。公立の小学校の児童は教科書を持っていませんが、私立の小学校では学校が教科書を買って用意しているところもあります。私立の小学校はお金の高い代わりによい環境で勉強でるようです。

(c)カリキュラム

小学校・中学校・高校は2月～5月が1学期、6月～8月が2学期、9月～12月が3学期、12月から2月までが長期休暇となります。小学校1年と2年は昼までですが、3年からは午後の授業もあります。上級になるに従い1時間の授業時間が長くなっていきます。授業は英語でおこなわれます。

小学校では10科目程度を学習します。国語

(Local Language)、スワヒリ語、英語、読み書き、算数、理科(保健含む)、社会、体育、音楽、図工、宗教、農業。しかし7年生になると小学校卒業試験の対策に時間をとられ試験科目が中心になります。小学校卒業試験は11月に行なわれ7年生が対象です。英語、算数、理科、社会の4科目で全てに合格しないと、中学校に行くことができません。合格率は2000年の全国平均で80%弱です。

2003年より小学校のカリキュラムが改定になり、保健・環境・人口・家族計画を含む「総合理科」、農業の生産から販売までの実習を行なう「総合生産技術」、音楽とダンス、体育をひっつけた科目「PAPE(パペ)」など新しい科目が登場します。

小学校教育の普及 UPE = Universal Primary Education  
 総合理科 Integrated Science 総合生産技術 Integrated Production Skill  
 PAPE=Performing Arts and Physical Education

小学校の科目と時間数

科目	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生
英語	6	6	7	7	5	5	5
国語	5	5	7	5	3	3	-
スワヒリ語	-	-	-	5	3	3	4
算数	5	5	5	5	5	5	5
総合理科	4	4	5	5	5	5	5
社会	3	3	4	4	4	5	5
宗教	3	3	4	3	3	3	3
総合生産技術	6	6	6	4	4	4	5
農業	3	3	4	4	4	4	4
PAPE	5	5	8	8	4	3	4
合計	40	40	50	50	40	40	40

中学卒業試験の試験科目

English Language, Mathematics, Biology, Physics, Chemistry, Music, Power and Energy, Art, Shorthand, Literature in English, Electricity and Electronics, Power and Energy, Principles of Accounts, Agric Principles and Practices, Clothing and Textiles, Woodwork, Metalwork, General Science, Agriculture, Typewriting, Political Education, Additional Mathematics, Health Science, Geography, Commerce, History of East Africa, History of Africa outside EA, Christian Religious Education, Islamic Religious Education, Office Practices, Computer Studies, German, French, Kiswahili, Luganda, Arabic Language, Latin, History of Art, Food and Nutrition, Home Management, Technical Drawing, Building Construction

高校卒業試験の試験科目

General Paper, Economics, European History, Mathematics, Subsidiary Mathematics, History of Africa, Geography, The Glorious Qur'an, Christian Religious Education, Islamic Religious Education Biology, Music, Chiritianity in East Africa, Chemistry, History, Woodwork, Art, ganda, Arabic Principles and Practices, Literature in English, Literature, Physics, Theory of Government and Constitutional Development, Agric Principles and Practices, Kiswahili, German, French, Latin, Arabic, Geometrical and Mechanical Draw, Geometrical and Building Drawing, Engineering Metalwork, Clothing and Textiles, Food and Nutrition, Music Literature

中学では、10科目程度学びます。英語、数学、生物の3科目が必修で、あと物理、化学、歴史、地理、政治、文学、仏語、音楽、美術、宗教、木材加工、金属加工、コンピュータ、家政、商業、商業実習、などの中から5～6科目を選択して学びます。どの科目があるかは学校により異なります。また内容も教える先生によって重点の置き方が違ってきます。

高校はほとんどが選択科目です。たった1つの必修科目は英語ですが、高校卒業試験では総合問題(General Paper)と呼ばれます。選択科目は学校によって大きく異なりますが、仏語、国語、文学、歴史、地理、経済、政治、宗教、美術、数学、物理、化学、生物、製図、栄養、金属加工などの中から3から5科目を学びます。

中学卒業試験は8科目以上、高校卒業試験は必修の総合問題と選択の3～4科目に合格しなければなりません。これらの試験は毎年11月から12月に行なわれます。問題はウガンダ国家試験委員会(UNE B=Uganda National Examinations Board)が作っていますが、多数の科目があることに大変驚きます。

ウガンダに来て、最初の頃混乱したことは、学校の種類によって年度始まりが異なることです。小学校・中学・高校はともに2月に始まり11月あるいは12月に終わります。高校の入学だけは4月ですが、卒業はやはり11月です。大学、UTC、UCC、NTCは10月始まりで、9月または10月に終わります。PTCは6月始まり、5月終わりです。

## 2. ウガンダの教育の問題点

だいぶ前のことですが、VSO(英国のボランティア)で中等学校教員養成短大で活動しているエリックさんとお話する機会があり、他の隊員とともにウガンダの教育問題について考えを深めることができました。ウガンダの教育のかかえる問題は手ごわいというのが感想です。

思いつくままに問題点をあげていきます。1クラスに生徒が多すぎる(60人)。横行する体罰(棒でたたく)。教科書や教材の不足、特に理科の教育において実験器具の不足。知識を教えるだけで実験をしない。本や器具が援助されてもダンボール箱に入れられたまま利用されない。教師が本を読んで、それを生徒がノートにコピーする授業スタイル。答だけを教えて、考えることに重点を置かない。おもしろくない勉強。テストのための詰めこみ。資格をとる目的のためだけの学校。保護者が詰めこみを望んでいる。合格率が低いと保護者が生徒を転校させる。幼稚園でも英語と算数を教えている。小さい子供には遊びながら学ぶことが必要なのに詰めこみによって自分で発見するチャンスを奪っている。親がノートをチェックしているのできちんとしたノートを作らせないといけない。試験での不正が多い。教師まで試験問題を売って不正を助けている。テストでの引っかけ問題古いシラバス。(今でも40年前の英国のものになっている)。本当に教科の内容を理解している教師が少ない。教師が子供の時に習ったのと同じやりかたで、今も教えている。子供を待たせる。理解できないでも覚えさせる。数学が苦手な教師が、数学嫌いの生徒を作り、それが次の教師となる。物事に集中しない教師。試験の採点も遅い。タイムマネジメントできていない。学校に来ない教師もいる。等々

そのほかにも、経済的な事情から小学校に行

けない子供がいる。ほとんどの子供が教科書を持っていない。図書館の整備が必要。上の学校を出てもなかなか仕事につけない。教師が自分の生活のために副業に忙しい。守られない時間割。毎日同じ食事(ポシヨと豆)。

これらは教育の問題というより、その根底にあるウガンダ社会のかかえる問題かもしれません。つまり教育制度とかの表面的な問題ではなく、ウガンダの人々の行動様式や考え方が教育上の問題を引き起こしていると思うのです。そのキーワードは意識改革です。そこで、私達は一体何ができるのか?地道にやるしかないと思うのですが。

ウガンダの人達がタイムマネジメントできない原因は子供のときの育てられ方が原因かもしれません。子供を殴って言うことをきかせる親や教師が多く子供の自主性を奪っています。それ以前に、子供の権利条約でも禁止されていることです。このような暴力は子供を動物のように扱っているもので、言葉で伝えたり、自分で考えたりする機会がなくなっています。本能的な行動、つまり、強いものには服従、弱いものには強く出るようになり、道徳や倫理に従った行動ができなくなります。自らの良心に従うことができず、外からの強制がなければ行動がとれません。そういうわけで、いつまでも待たされるのが常習化し、偉い人ほど人を待たせ偉くない人は文句を言わないでそれに従う構造ができあがっていったのかもしれませんが。人々が潜在的に能力をもちながらそれを発揮できていないことは社会にとっても大きな損失です。ウガンダは家族や地域の間人間関係が濃いので問題が表面化していませんが、今後、経済的に発展して行く中で子供の数が減り、個人個人の生き方が問われるようになると、自己管理能力を奪う子供への暴力はウガンダでも大きな問題になってくるでしょう。日本と同様に、社会が変化する中で、それまでの押さえつける教育ではうまくいけなくなり、さまざまの問題が表面化してくるようになるでしょう。日本もさまざまの問題を抱えています。目の前の現実に真摯な態度で立ち向かっていくしかないでしょう。

ウガンダの教育でよい点をあげるとすれば、エイズ教育に力を入れている点です。小学校では保健の内容をを理科のカリキュラムに含め、多くの時間を保健やエイズ対策に使って、集会等でも、必ずエイズの話を入れるように教育省が指導しています。実際、学校行事で来賓等が話しをする時に、エイズ対策の話がいつも出てきます。音楽・ダンスや演劇のコンテストでも各学校がエイズをテーマにしています。それだけ、切実な問題であるという認識が定着しているのだと思います。(以上)